

特集

「目指すべき中学校のあり方」が
まとまりました

町内唯一の中学校である豊山中学校は、築後60年近く経過し、老朽化が進んでいることから、改築整備を前提とした検討を進めています。このたび、令和3年6月から豊山町中学校施設整備基本構想会議で検討・協議が行われた「目指すべき中学校のあり方」がまとまりました。その内容についてお知らせします。

検討の経緯

構想会議は、学識経験者、中学校関係者、町民代表者計9名で構成し、合計8回にわたり開催されました。教育環境の質的向上を始めとした5つの観点から、中学校改築について、専門的知見に基づく議論が行われました。

また、できる限り幅広く意見を伺うために行った、生徒、保護者等の皆さまからの意見聴取や、中学生以上の町民千人を対象としたアンケートの結果も、今回の「目指すべき中学校のあり方」に反映されました。

豊山中学校の課題

一 運営状況について

- ・生徒数は増加傾向であり、全国平均以上である。
- ・学級数は標準であるが、現状、空き教室数は少ない。

一 構造躯体について

- ・校舎の耐震補強工事は実施済みであるが、築年数が約60年となっており老朽化が著しい。
- ・既存施設は漏水痕や躯体のひび割れが多数あり、比較的新しい体育館棟においても構造クラックが広範囲にわたっている。

一 施設機能について

- ・体育館の屋内プールには可動式トップライトが取り付けられているが、現在はその機能を十分に果たしていない。
- ・屋内プールの維持費が高い。
- ・校庭の砂が飛散しやすく近隣の迷惑となっており、体育館や外階段にも砂が溜まり危険である。

一 周辺環境について

- ・隣接住宅への日影環境が不良である。
- ・駐車場は現状不足している。
- ・密集市街地に囲まれており、住宅地と隣接する部分に狭あい道路が見受けられるため、工事を行う際に配慮が必要である。

目指すべき姿の観点と課題

目指すべき姿の観点を5項目に整理し、さらに項目ごとに課題を整理しました。改築計画上の検討項目をご紹介します。

一 1 教育環境の質的向上

● 多様な学習形態への対応

- ・普通教室の机サイズはタブレット、教科書、ノートが広げられる大きさを基準とする。

- ・生徒がゆったりと落ち着いて学べるよう、各教室は現状（約63㎡）以上の面積を確保する。

- ・教室内のロッカーは使い勝手が良いようにできる限り大きく整備する。

- ・廊下、階段等は、生徒の学習の場とし

ての機能を確保する。

- ・タブレットの有効利用ができるようモニターなどを含めた総合的なICT教室環境を計画する。

- ・現状以上の機能を基本としたグラウンドを計画する。

● 特色ある教育環境

- ・特別教室及び準備室を充実させ、様々な教育ができるよう整備する。
- ・読書活動を一層推進し、授業における図書室活用の拡大に向け、図書室機能を向上させる。

● 生徒数に対応した空間の確保

- ・1クラス35人を基準に1学年180人前後を想定しつつ、各学年6クラス編成が可能な配置とする。

- ・同一学年は同一階に配置できるように余裕教室も考慮した計画とする。

- ・余裕教室は、今後の教育環境の変化を見込み多目的利用や少人数学習にも対応できるように整備する。

- ・障がいの種別に柔軟に対応できる教室を計画する。

● 働きやすい執務環境

- ・働く場所として機能的な職員室を整備する。

- ・将来の職員増加にも対応できるよう整